

E 17 東南アジア島嶼部地域における家族の構造的特質についての一考察
—— ジャワ社会の離婚と日本社会のそれとの比較より ——

兵庫教育大 戸谷修

ジャワ社会における離婚率の実態

ジャワ社会の離婚率は過去30年間(1947—1973)の統計数字をみるかぎり、きわめて高い。婚姻100に対する離婚件数の割合で離婚率を表すと、同期間の離婚率は平均44.0%となっている。わが国の離婚率は明治以降から現在に至るまで、いくらかの高低はあるものの10%台であるから、ジャワ社会の離婚率がいかに高いものであるかが確認される。

離婚によって生ずる諸問題とその処理

日本社会では離婚となると、(1)子どもに与える影響は大きく、まま子・連れ子ともに好まれないこと、(2)女性の実質的な地位が低いので、離婚して女性が働きに出ても一般的には著しく苦勞すること、(3)離婚した女性は低く評価され再婚が困難となることなどによって、その病理現象は鋭くあらわれる。それに対して、ジャワ社会では、(1)両親の離婚後の子どもは親族に快く引き取られたり、連れ子としてついていった場合でも先方で差別視されることなく、子どもの処理は比較的容易であること、(2)再婚のさい、離婚した女性が不利な条件を被ることは全くないこと、(3)離婚後の女性の経済生活が比較的安定していることなどによって、彼らの社会では離婚による家族の病理現象はそれほど鋭く現れない。

ジャワ社会における家族意識と親族組織

わが国の離婚が一般には深刻な家族病理を生み出すのに対し、ジャワ社会のそれが必ずしも家族病理につながらないのは、両社会の家族意識ならびに親族構造によるところが大きい。ジャワの家族では、家族の排他性の意識の稀薄さ、bilateralなKinshipを重視したい。